



2011年3月期
決算説明会

2011年5月27日

目次

- I. 2011年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー

- II. 2012年3月期事業計画
 - 1. 2012年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題

- III. トピックス

-1 . 2011年3月期決算の概要

経営環境

中国を中心にした新興国市場の成長に伴う輸出の増加や政府景気対策により、緩やかな回復傾向が見られたが、円高の長期化や昨秋以降の景気対策の縮小、さらには3月11日に発生した東日本大震災の影響により景況感は依然厳しく先行き不透明な状況のまま推移した。

業績の概要

国内の新車用自動車電池及びフォークリフト用電池の需要が回復したことや、アジアを中心とした海外事業が堅調に伸びたことにより高い利益水準を達成した。また、車載用リチウムイオン電池が本格的に立ち上がった。なお、東日本大震災の影響は軽微であった。

-1 . 2011年3月期決算の概要

業績

(億円)

	2009年度	2010年度	増減
売上高	2,472	2,725	+253
営業利益	115	176	+61
経常利益	102	175	+73
特別利益	10	13	+3
特別損失	9	45	+36
税前利益	103	143	+40
法人税等	38	26	-12
純利益	65	117	+52
ROE	8%	11%	+3%
配当	6円 / 株	8円 / 株	+2円 / 株

-1 . 2011年3月期決算の概要

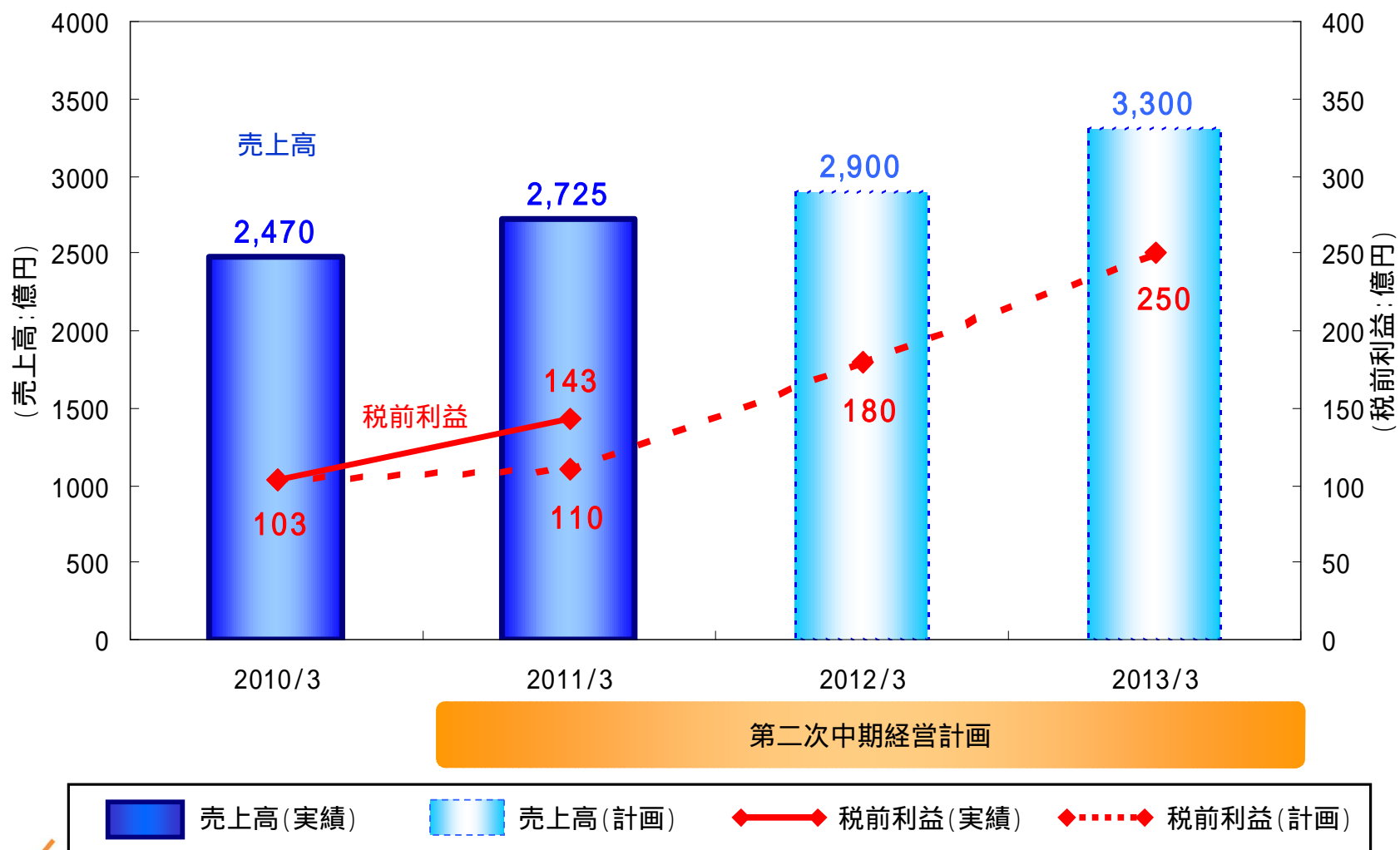
営業利益・経常利益・税前利益

(億円)

	2009年度	2010年度	増減	主な増減要因
営業利益	115	176	+61	数量の変化 +40 鉛価格・売価変化 +20 その他 +1
経常利益	102	175	+73	< 営業利益の増加 > +61 持分法利益の増加 +23 為替差損 -16 その他 +5
税前利益	103	143	+40	< 経常利益の増加 > +73 関係会社整理損 -30 (三洋ジーエスソフトエナジー) その他 -3

-1. 2011年3月期決算の概要

中期経営計画の進捗状況



目次

I. 2011年3月期決算

1. 決算の概要
2. 事業セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2012年3月期事業計画

1. 2012年3月期事業計画
2. 事業セグメント別事業課題

III. トピックス

-2 . 2011年3月期決算

セグメント別業績

(億円)

	2009年度		2010年度		増減	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
国内自動車電池	567	18	589	48	+22	+30
国内産業電池電源	590	69	659	84	+69	+15
海外	1,047	69	1,182	86	+135	+17
その他	268	-41	295	-42	+27	-1
合計	2,472	115	2,725	176	+253	+61

-2. 事業セグメント別業績



国内自動車電池事業

(億円)

	売上高	セグメント利益
2010年度	589	48
2009年度	567	18
増減(10-09年度)	+22	+30

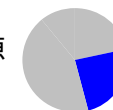
主な増益要因

- ・ 数量の増加 +7
- ・ 鉛価格・売価変化 +9
- ・ 生産性向上
合理化等 +14

- ・ 猛暑、厳冬により補修用電池は堅調に推移
- ・ エコカー補助金等により上期の新車用電池は販売好調
- ・ 東日本大震災の影響は軽微

-2. 事業セグメント別業績

産業電池電源
セグメント



国内産業電池電源事業

(億円)

	売上高	セグメント利益
2010年度	659	84
2009年度	590	69
増減(10-09年度)	+69	+15

主な増益要因

・ 数量の増加	+4
・ 鉛価格・売価変化	+2
・ 貸倒の減少	+8
・ その他	+1

- ・ 据置用電池および電源装置は前年を下回るが太陽光発電設備が拡大
- ・ フォークリフト用電池は需要が大幅に回復
- ・ 東日本大震災の影響は軽微

(注) 2010年度業績には特機事業の売上高67億円を含みます。

-2. 事業セグメント別業績

海外事業

(億円)

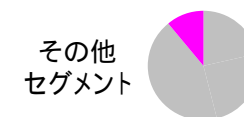
	売上高	セグメント 利益
2010年度	1,182	86
2009年度	1,047	69
増減(10-09年度)	+135	+17

主な増益要因

- ・ 数量の増加 +8
- ・ 鉛価格・売価変化 +11
- ・ 為替換算 -2

- ・ 中国、東南アジアを中心に自動車・オートバイ用電池の販売数量が増加
- ・ 欧米のオートバイ用電池の販売数量が回復
- ・ フォークリフト用電池の販売数量が増加

-2. 事業セグメント別業績



その他

(億円)

	売上高	セグメント 利益
2010年度	295	-42
2009年度	268	-41
増減(10-09年度)	+27	-1

- 2009年度は本セグメントに含まれていた特機事業は、2010年度から産業電池電源セグメントに移管するも、車載用リチウムイオン電池の販売数量増加により売上高が増加（2009年度 特機事業 売上高:58億円）
- 車載用リチウムイオンの減価償却費・研究開発費が増加

(注)「照明」及び「消去又は全社」については、「その他」に含めております。

目次

I. 2011年3月期決算

1. 決算の概要
2. 事業セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー

II. 2012年3月期事業計画

1. 2012年3月期事業計画
2. 事業セグメント別事業課題

III. トピックス

-3. 貸借対照表・キャッシュフロー

貸借対照表

(億円)

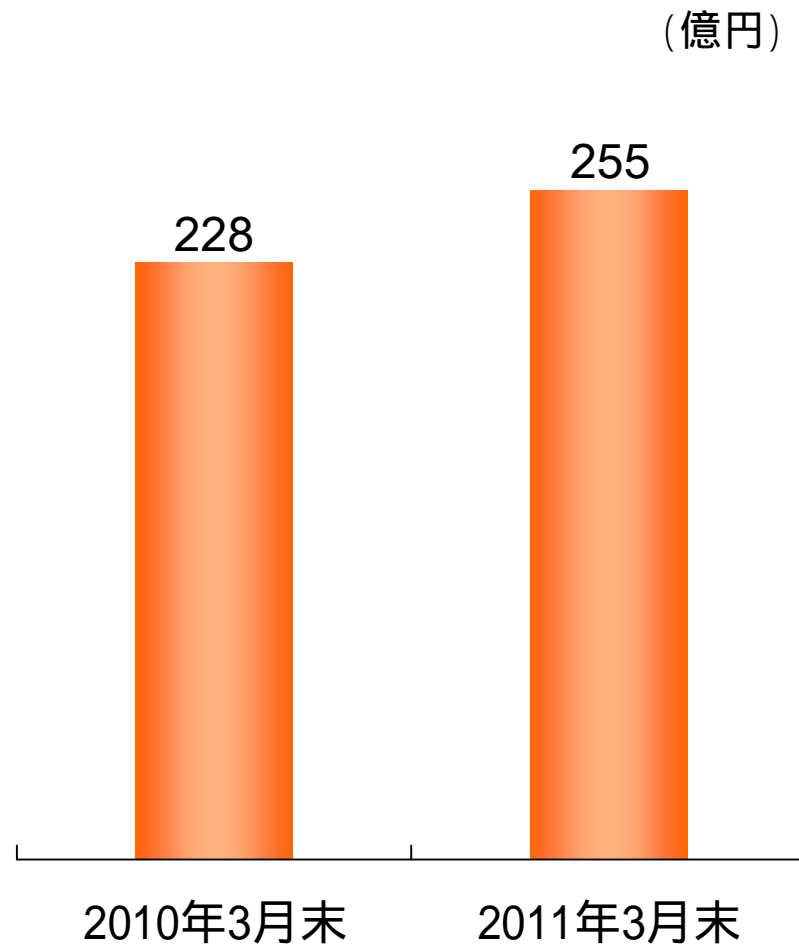
	2010/3末	2011/3末	増減額		2010/3末	2011/3末	増減額
流動資産	1,289	1,281	-8	負債	1,249	1,251	+2
・ 棚卸資産			+22	・ 借入金			-70
・ その他			-30	・ 退職給付金引当			+14
				・ リース債務の増加			+40
				・ 関係会社整理損引当			+16
固定資産	1,077	1,192	+115	純資産	1,119	1,223	+104
・ 有形固定資産			+82	・ 純利益および株主配当			+92
・ 投資有価証券の増加			+21	・ 為替換算調整勘定			-27
				・ 少数株主持分			+37
総資産	2,368	2,474	+106	負債・純資産	2,368	2,474	+106

資産	車載用リチウムイオン電池の事業拡大により、棚卸資産および固定資産が増加
負債・純資産	負債は借入金が増加 純資産は当期純利益が増加 自己資本比率:43.8%(+0.9%)

-3. 貸借対照表・キャッシュフロー

営業キャッシュフロー

(億円)



2011年3月末
主な内訳

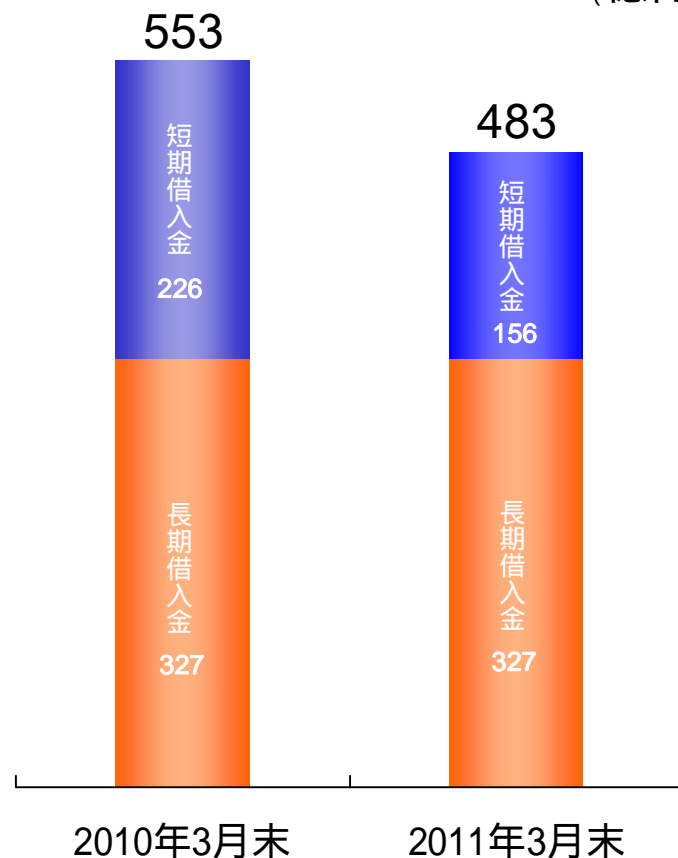
・ 税前利益	143	} 250
・ 減価償却費	107	

(運転資本は増加せず)

-3. 貸借対照表・キャッシュフロー

有利子負債

(億円)



増減要因

・ 営業C/F	+255
・ 投資C/F	-254
・ 少数株主からの出資等	+44
・ 設備の賃借化による 少数株主からの収入	+44
・ 配当金、その他	-19
減少額合計	70 億円

債務償還年数 1.9年

目次

- I. 2011年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー

- II. 2012年3月期事業計画
 - 1. 2012年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題

- III. トピックス

-1 . 2012年3月期 事業計画

経営環境

東日本大震災の影響により、原材料や部品などのサプライチェーンの停滞や電力供給の制約を受け生産活動が一時的に低迷し、それらが消費者心理の冷え込みを引き起こすことが考えられ、極めて先行き不透明な状況にあり、当社を取り巻く環境は必ずしも良好であるとはいえない。

基本方針

当社グループにおいては、このような環境の下、既存事業の更なる収益力強化、中国・アジアを中心に海外事業の拡大に努め、その収益を源泉として長期的な成長へ大きく踏み出すべくリチウムイオン電池事業の育成に注力する。

-1 . 2012年3月期 事業計画

(億円)

	2010年度 実績	2011年度 計画	増減
売上高	2,725	2,900	+175
営業利益	176	180	+4
税前利益	143	180	+37
純利益	117	120	+3
配当	8円/株	8円/株	± 0円/株
2011年度前提条件	(鉛価格) 国内建値: 26万円 / t LME: \$2,300 / t (為替レート) 84円 / \$		

-1. 2012年3月期 事業計画

設備投資額・減価償却費

(億円)

	2010年度	2011年度	増減
リチウムイオン電池事業	110	340	+230
海外事業	38	40	+2
その他	52	70	+18
設備投資額 合計	200	450	+250
減価償却費	102	130	+28

目次

- I. 2011年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー

- II. 2012年3月期事業計画
 - 1. 2012年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題

- III. トピックス

-2. 2012年3月期 事業計画

セグメント別業績

(億円)

	2010年度		2011年度		増減	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
国内自動車電池	589	48	540	45	-49	-3
国内産業電池電源	659	84	700	85	+41	+1
海外	1,182	86	1,240	85	+58	-1
リチウムイオン電池	-	-	250	-20	+125	+7
その他	295	-42	170	-15		
合計	2,725	176	2,900	180	+175	+4

-2. 2012年3月期 事業計画

セグメント別課題

国内自動車電池	<ul style="list-style-type: none">• 環境対応車用電池の品質差別化による市場競争力強化• 販売店への支援強化
国内産業電池電源	<ul style="list-style-type: none">• サービス網の活用による差別化戦略の推進• 計画停電、ピークカット対策電源・電池の拡販• 産業用リチウムイオン電池の用途開拓促進
海外	<ul style="list-style-type: none">• アジア拠点での自動車・オートバイ用電池の生産・販売体制の強化• 材料調達コストの低減
リチウムイオン電池	<ul style="list-style-type: none">• リチウムイオン電池搭載車種の拡大• 栗東工場の稼働に向けた準備• 生産体制の拡大強化によるコストの大幅低減

目次

- I. 2011年3月期決算
 - 1. 決算の概要
 - 2. 事業セグメント別業績
 - 3. 貸借対照表・キャッシュフロー

- II. 2012年3月期事業計画
 - 1. 2012年3月期事業計画
 - 2. 事業セグメント別事業課題

- III. トピックス

トピックス

東日本大震災の影響と復興

< 直接被害 >

子会社2社が被災、操業を停止 3月末に生産を再開

< 震災の影響 >

2010年度特別損失額:3.4億円

完成車メーカーの減産(11年度影響見込額:売上 - 80億円)

計画停電・ピークカット対策電池・電源装置需要拡大の予測

< 震災への支援 >

1億円の義援金を寄付



トピックス GSユアサに出来ること

ピークカット

計画停電

重要な機器に電力が供給されないリスク

インフラ	電力網	発電所・変電所
	鉄道・道路	踏切・運行管理システム・CCTV・信号
	通信網	放送局・基地局・防災無線など
事業所	工場・病院	製造制御機器・人工透析機器など
	事務所・店舗	サーバ・POS・空調など

< GSユアサに出来ること >
 繰返し停電をバックアップする
 電源システムをラインアップ



トピックス

海外事業 オートバイ用電池

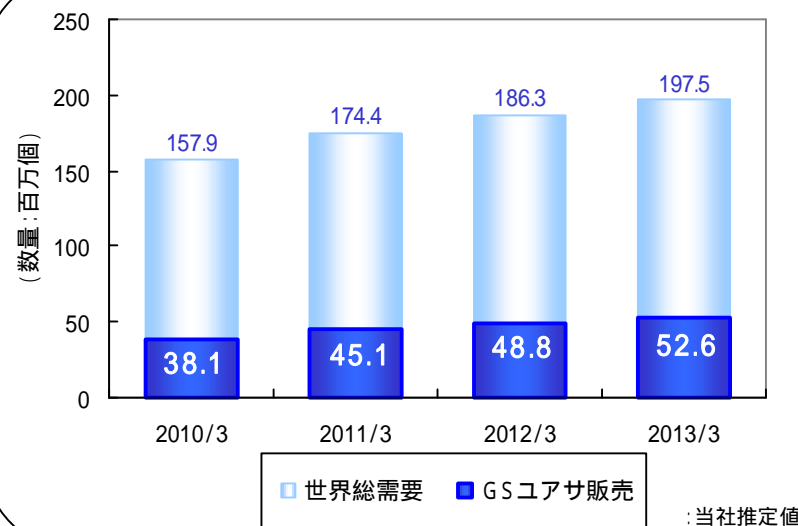
重点課題

- ・ 需要が急伸するアジアでの生産・販売の強化
- ・ 中国での代理店育成・強化

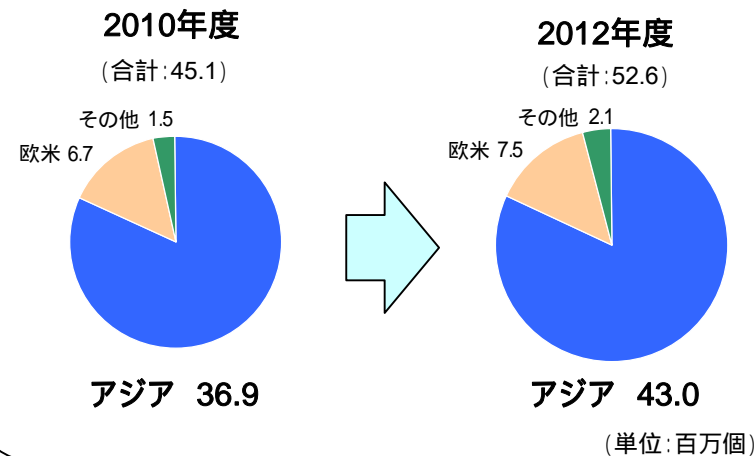
<生産・販売を強化する拠点>



<世界総需要とGSユアサ販売数量>



地域別のGSユアサ販売数量



トピックス

海外事業 オートバイ用電池 / 中国・台湾



< 各地域における販売数量 >

中国 (3拠点)

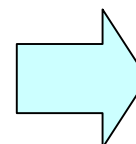
— 2010年度 —

5.5 百万個

シェア 8%

(総需要 : 67.0百万個)

生産数量 : 7.0百万個



— 2012年度 —

6.3 百万個

シェア 9%

(総需要 : 73.0百万個)

生産数量 : 9.1百万個

台湾 (2拠点)

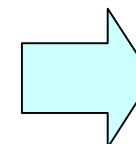
— 2010年度 —

4.0 百万個

シェア 90%

(総需要 : 4.5百万個)

生産数量 : 8.7百万個



— 2012年度 —

4.6 百万個

シェア 94%

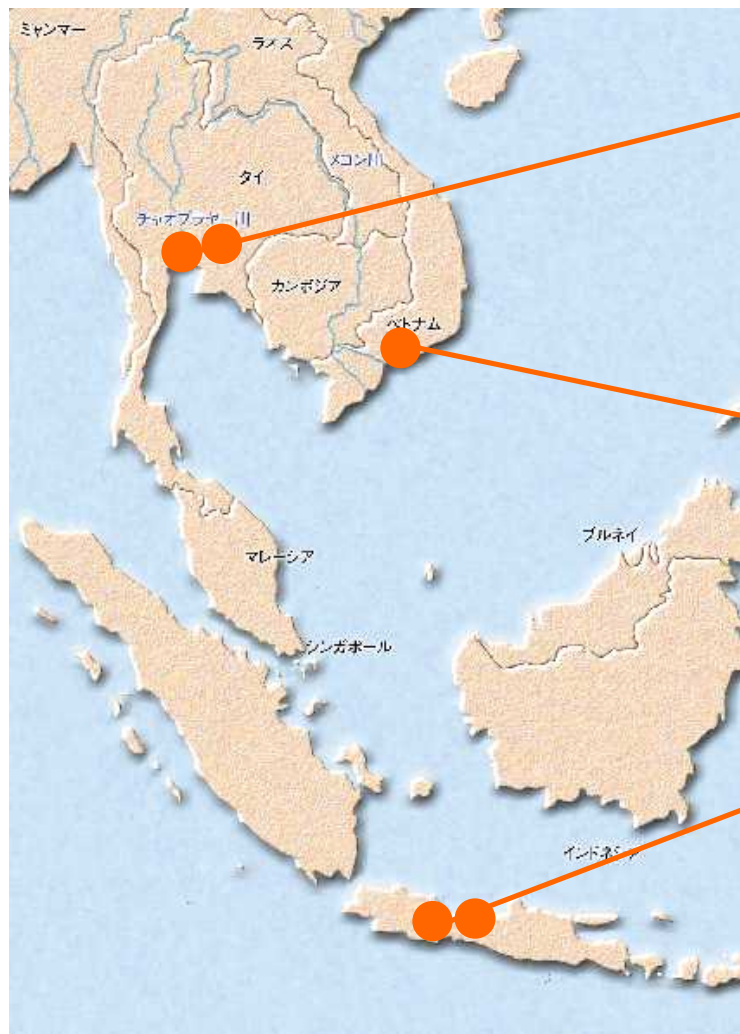
(総需要 : 4.9百万個)

生産数量 : 9.0百万個

: 当社推定値

トピックス

海外事業 オートバイ用電池 / アセアン



< 各地域における販売数量 >

タイ (2拠点)

—2010年度—

2.9 百万個

シェア 37%

(総需要 : 7.7百万個)

—2012年度—

3.2 百万個

シェア 38%

(総需要 : 8.4百万個)

ベトナム (1拠点)

—2010年度—

4.3 百万個

シェア 51%

(総需要 : 8.4百万個)

—2012年度—

5.0 百万個

シェア 52%

(総需要 : 9.5百万個)

インドネシア (2拠点)

—2010年度—

15.7 百万個

シェア 89%

(総需要 : 17.5百万個)

生産数量 : 18.2百万個

—2012年度—

18.6 百万個

シェア 88%

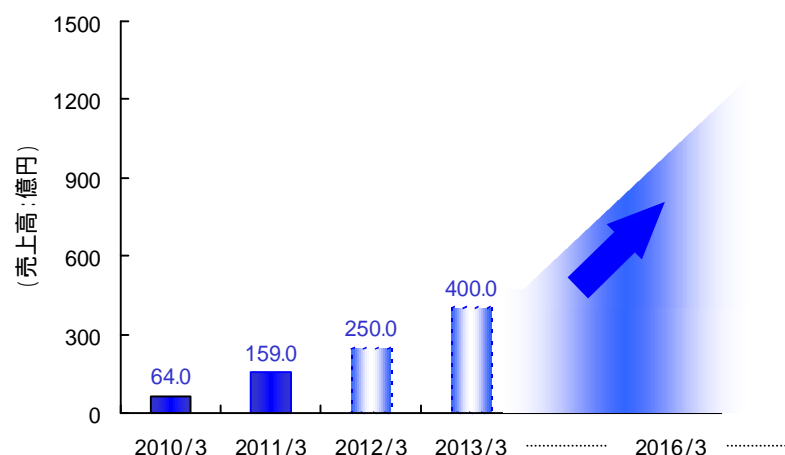
(総需要 : 21.1百万個)

生産数量 : 21.1百万個

トピックス

リチウムイオン電池事業

< 売上高の推移 >



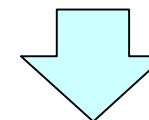
生産拡大に向けた設備投資

期間	2011/3- 2013/3期 第2次中計	2014/3- 2016/3期 第3次中計
投資額	500億円	500億円
合計	1,000億円	



当社の優位性

- ・ 高容量、高電圧に対するノウハウ
約20年間蓄積した大型リチウムイオン電池の豊富な研究開発、製造、販売実績
- ・ 大型リチウムイオン電池の生産技術力
世界初の車両用リチウムイオン電池量産工場の立上げ
- ・ 研究開発能力
高性能新材料の開発
アプリケーションに適応したさまざまな材料を組み合わせた製品ラインアップ



産業用リチウムイオン電池事業の拡大

車載用リチウムイオン電池事業の拡大

トピックス

産業用リチウムイオン電池事業の拡大

超高信頼、超長寿命
多くの実績に基づくノウハウ
製品に展開

宇宙・航空分野



航空機



衛星

国際宇宙ステーションに
物資を補給する
宇宙貨物輸送機「Cygnus」用
リチウムイオン電池の仕様認証を
オービタルサイエンス社から取得

産業用分野

- ・ アプリケーションに適応した
電池システムを開発する
実績とノウハウ
- ・ 用途開発による市場拡大



無人搬送車



ハイブリッド トランスファークレーン



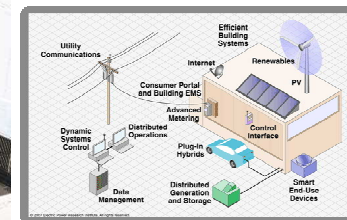
LRV



ハイブリッド電車



PV-EVシステム



スマートグリッド



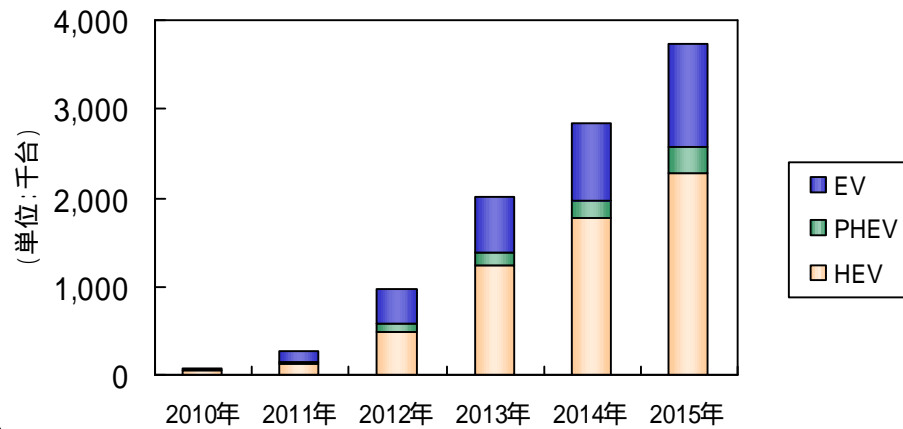
新発売したLIM50Eモジュール



トピックス

車載用リチウムイオン電池事業の拡大

<リチウムイオン電池搭載車 世界市場予測>



出展: IT総研

生産能力の拡大



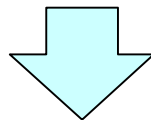
高性能材料の開発

正極活物質	期待できる性能
リン酸バナジウム	高入出力
リン酸マンガン	高エネルギー 高入出力
Li-rich 三成分	高エネルギー



リン酸バナジウムを
正極材料に用いた
リチウムイオン電池

日本、欧州、米国の自動車メーカーへの
積極的アプローチ



新規顧客の獲得



トピックス

車載用リチウムイオン電池事業 EVへの採用拡大

2009年 6月
販売開始

2010年～
PSA向けOEM供給

201X年
車種拡大



Drive@earth



Mitsubishi Motors
「i-MiEV」



PEUGEOT
Peugeot
「iOn」



PEUGEOT
Peugeot
「Partner」

リチウムイオン電池生産能力
(i-MiEV換算)

2009年	1900台分/年
2010年	9000台分/年
2011年(予)	18000台分/年
2012年(予)	50000台分/年

: 輸出分、PSA向け供給を含む



CITROËN
Citroën
「C-Zero」



CITROËN
Citroën
「Berlingo」

トピックス

HEV用リチウムイオン電池

2010年 秋
ブルーエナジー 長田野工場
完成

2011年2月
量産出荷開始

2011年4月
アメリカン・ホンダモーターが全米で
シビック ハイブリッドを発売

< 今後の取組み >

- ・ 長田野工場での増産
- ・ 搭載車種の拡大
- ・ 用途の開拓・拡大



長田野工場(京都府福知山市)



シビック ハイブリッドに
搭載されるセル



シビック ハイブリッドに
搭載されるモジュール

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。



連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

コーポレート室

中野 宏治 ・ 山本 靖志 ・ 谷川 浩一

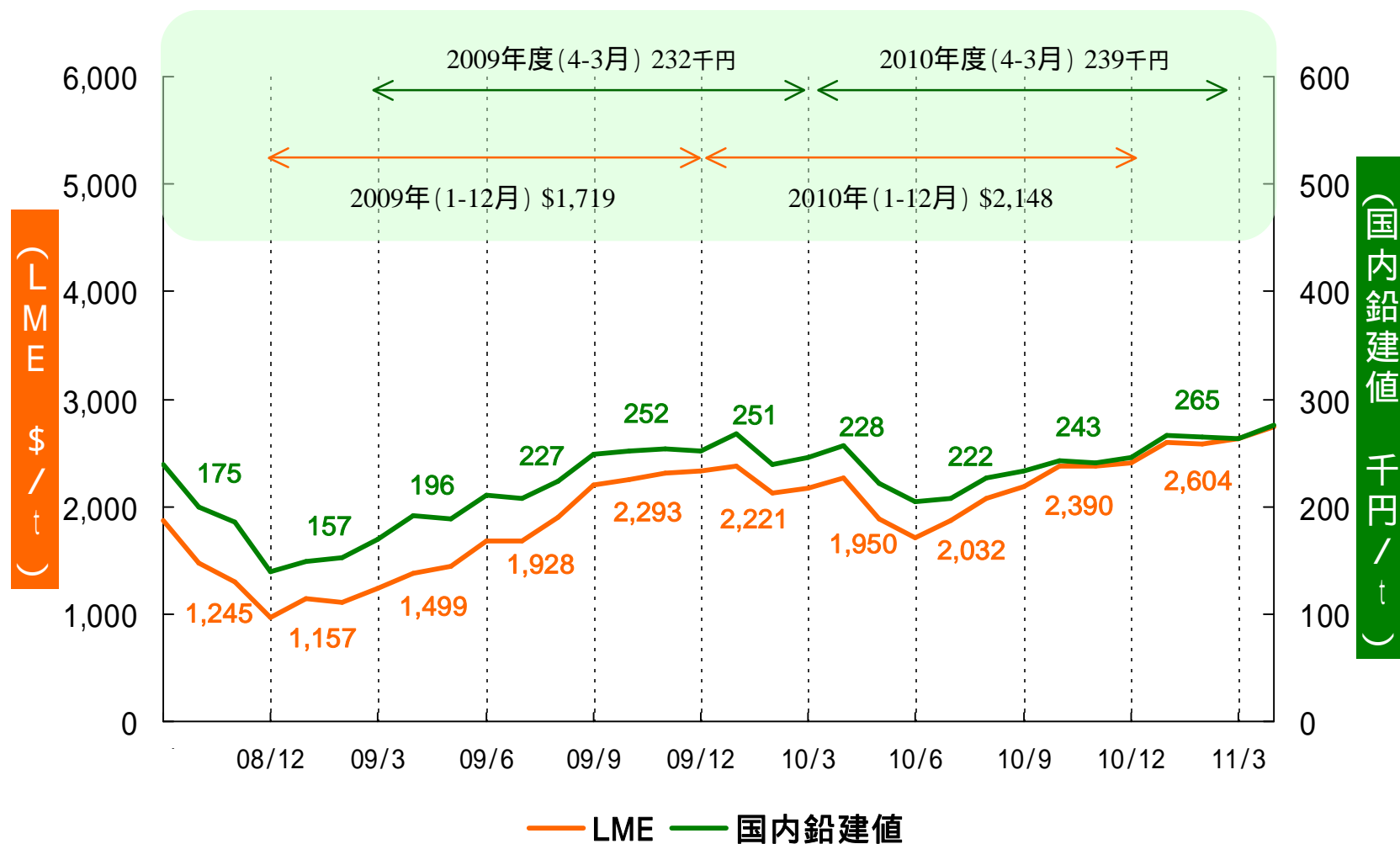
Tel : 075-312-1214

<http://www.gs-yuasa.com/jp>



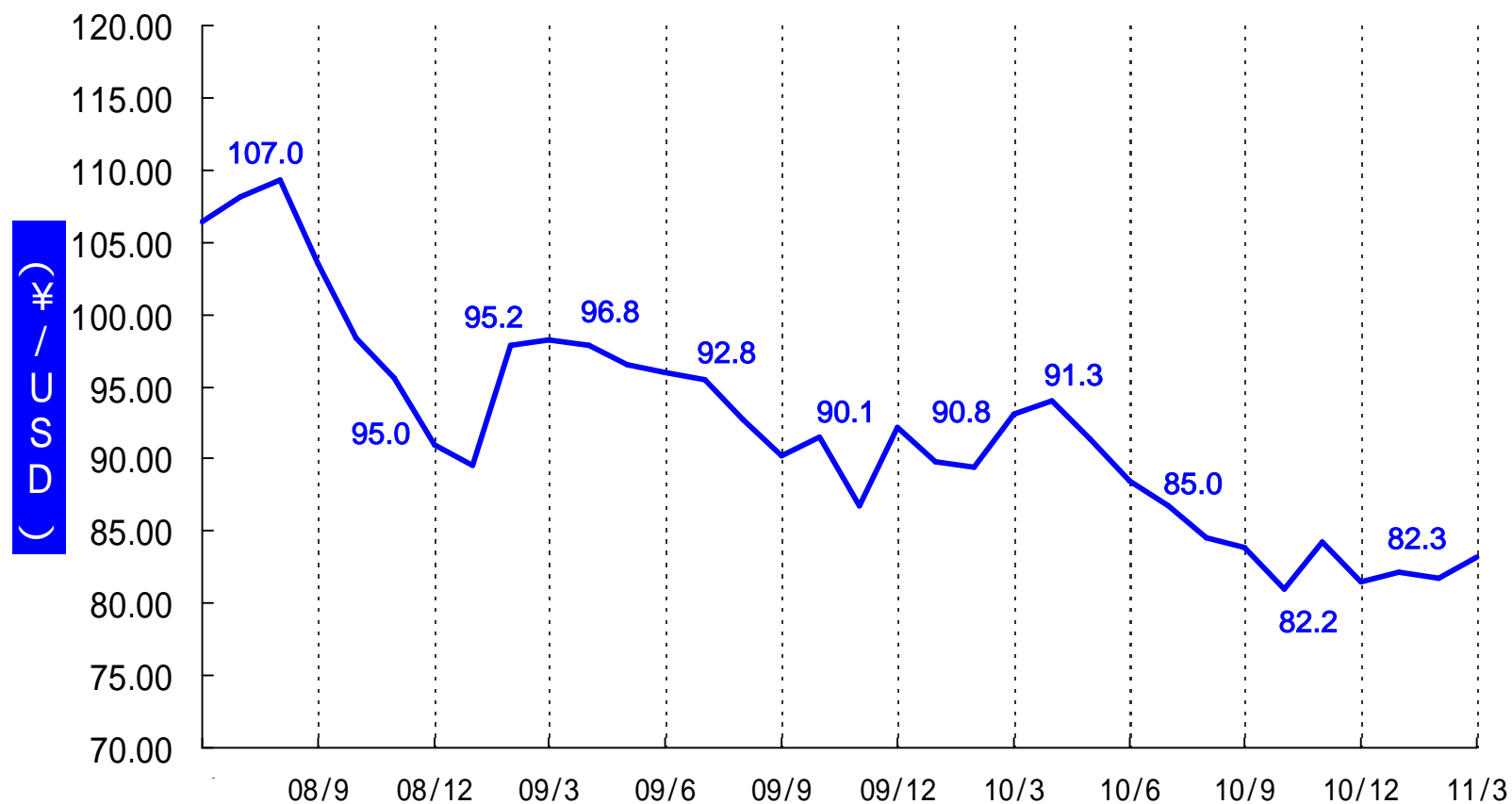
参考資料

鉛価格の変動



参考資料

為替の変動



参考資料

リチウムイオン電池 生産拠点



Blue Energy 長田野事業所
工場稼動 2011年2月
生産能力 HEV 20 ~ 30万台 / 年



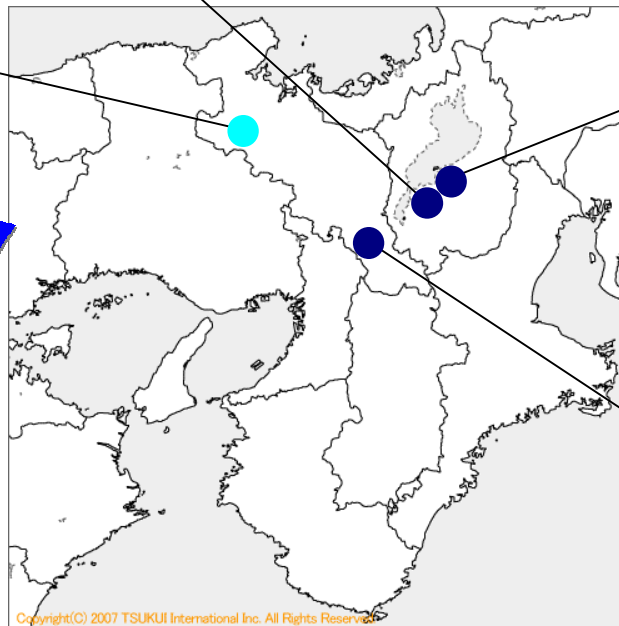
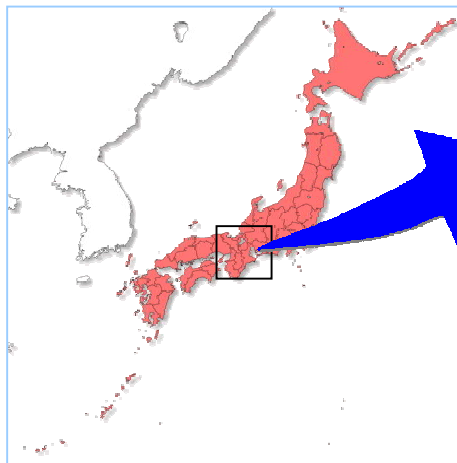
LITHIUM ENERGY JAPAN 草津工場
工場稼動 2009年6月
生産能力 EV 6,800台 / 年



(2011年4月撮影)
LITHIUM ENERGY JAPAN 栗東工場
工場稼動 2012年4月
生産能力 EV 50,000台 / 年



LITHIUM ENERGY JAPAN 京都工場
(GSユアサ社内)
工場稼動 2010年12月
生産能力 EV 11,000台 / 年



- 株式会社 リチウムエナジー ジャパン生産拠点
- 株式会社ブルーエナジー生産拠点

Copyright(C) 2007 TSUKUI International Inc. All Rights Reserved.

他社情報 (リチウムイオン電池)

社名	投資時期	投資額	ロケーション (用途)	敷地面積 建物床面積	その他
パナソニック (エナジー社) (プライムアースEVIナジ-) トヨタ自動車 80.5% パナソニック 19.5%	2008～2011年 	1,000億円 (2期に分けて 建設)	住之江工場 (EV用)	1期: 11万1,000㎡ 1期: 9万4,000㎡	・3.4Ah/セルの量産を開始 (従来品2.9Ah) ・3億個/年へ拡大予定
三洋電機 2011年4月～ パナソニックの 完全子会社化	2010年5月着工 2010年11月予定 	総工費30億円	徳島工場 新技術棟 (民生用/ HEV用)	176,597㎡ 93,809㎡	
	2009年9月着工 2010年7月竣工 	約130億円 (建屋のみ)	加西事業所 (EV用/ HEV用)	約188,000㎡ 42,831㎡ (5階建て)	当初 100万セル/月で稼動

他社情報(リチウムイオン電池)

社名	投資時期	投資額	ロケーション (用途)	敷地面積 建物床面積	その他
オートティブエナジーサプライ NEC 51% 日産自動車 49%	2008～2011年 	-	座間事業所 民生用 (EV用/ HEV用)	約10,000 m ²	2012年 生産能力:50万台/年
東芝 	2010年4月着工 2010年10月竣工 	250億円	新潟県柏崎市 (柏崎フロントパーク) (EV用/ PHEV用)	33,000 m ² 21,000 m ²	・生産開始当初、50万セル/月(20Ahセル) ・2011年度中100万セル/月 ・2015年度売上高目標2,000億円

新聞、各社発表資料より当社作成

他社情報(リチウムイオン電池)

社名	投資時期	投資額	ロケーション (用途)	敷地面積 建物床面積	その他
SB LiMotive サムスンSDI(50%)と ポッシュ(50%)の合弁会社	2010年11月	総額5億ドル (約400億円)	韓国 蔚山(ウルサン)市 (EV用/ HEV用/ PHEV用)	-	・2012年:2万台分/年 ・2015年:EV18万台分/年
LG化学	2010年6月	1兆ウォン (約730億円)	韓国 忠清北道清原郡 (EV用)	5万7000 m ²	・年間850万セル規模のEV用LIBを 生産 世界最大規模 ・2013年:8000万セル/年
	2012年3月	3億300万米ドル	米国 ミシガン州ホランド市 (EV用)	約6万 m ²	EV5万~20万台分/年
	-	-	欧州	-	工場建設予定